



コロナと共生しながら 子どもたちの主体性を育もう

ご入園、ご進級おめでとうございます。

線路沿いの桜も見ごろを迎え、保育園の園庭では子どもたちが植えたちゅうりっぷが咲き、うれしそうに風に揺られています。

新年度は新入園児8名を迎え、進級児34名とともに42名でスタートします。

さて、昨年度は新型コロナウイルス感染症対応をしながら、子ども達には出来るだけ普段通りの「たのしい保育」を進めてきました。感染症の収束にはまだ時間がかかるとは思いますが、保護者の皆様にもこれまで同様、検温、手指消毒、健康観察表の記入などのご協力をお願いします。

当園の保育理念は『感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子』ですが、これには、「0歳からの幼児教育」をテーマに、赤ちゃんの頃からしっかり可愛がられ、声をかけてもらい、普通の愛情で満足することが土台となります。大人から与えられた安心感や信頼感が自分の存在に対する自信となっていきます。これが「やる気」の原点になったり、友だちを求める気持ちに繋がります。成長する中で楽しい経験や時に痛い、悲しい、悔しいというマイナスの経験を乗り越えていく中で、人との付き合い方や我慢したり、自分の気持ちに折り合いを付けることを学び、自分以外の人の気持ちを考えることで感謝や思いやる心、自分のことは自分で決める主体性が育っていくことをねらっています。

これから子どもたちは、新しい環境の中で楽しさだけでなく、自分の思い通りにいかないことで気持ちがイライラしたり、自分の気持ちがコントロールできないことなどもあるかと思いますが、園生活になじみ、集団生活の中で意欲的に遊ぶことで、落ちついてくるものと思われれます。いつまでも

登園を嫌がるようでしたらご一報ください。

集団生活には、生活リズムを整えていくことが大切です。「早寝早起き朝ごはん」と、よく言われますが、朝同じ時間に起きるためには早寝が習慣になるとよいですね。基本的な生活習慣(寝ること、食べること、衣服を着ることなど)は全ての自立の習得につながっていきますので、ご家庭でも、出来るだけ子どもたちの様子を見ながら声かけや援助をしていただきますようお願いいたします。

新園舎での生活も半年が過ぎ、いろいろな設備も整ってきました。今年度は園庭に日よけテントを取り付けたり、エアーマットの購入などがあります。これからも子どもたちが自ら遊びたいくなるような環境のもと、子どもたちと一緒に主体性を高める保育を進めていきたいと思ひます。

主体性を伸ばすためには、保護者の皆様の主体性理解が大切になります。

保育園で子どもたちがどんなことに興味を持って取り組んでいるのか、そのあそびがどんな風に広がり、つながっているのかなど、あそびの中で子どもたちが学んでいく様子を保護者の皆様にも一緒に感じていただき、ご理解ご協力をいただくために、保育園で過ごすお子さんの様子を連絡アプリ“きっずノート”で写真や文章で配信し、「保育の見える化」を実施しています。保護者の皆さまからも、お子さんの家庭での様子など情報交換ができれば、園での保育に取り入れてまいります。

4月は“出会い“がたくさんあります。その“出会い“で見つけたもの、この時期にしか出会えないものを子どもたちとともに、職員もわくわくときどきしながら楽しみたいと思ひます。一年間よろしくお願ひ致します。

園長